



4つの癌を乗り越えて 三代目紙芝居師 森下昌毅さん

「左首（リンパ部）が腫れと痛みがありました。」

三代目紙芝居師として東京新聞で先日掲載された森下昌毅さん（66歳）のがん闘病記です。

2016年10月7日朝、起床時に左首の腫れに気が付きました。四日程前から何となく違和感を感じていました。翌日に耳鼻科で受診し、すぐに別の病院でリンパ部の腫れを調べるため、喉のCT検査を行うと左側リンパが腫れ（卵位の大きさ）咽頭部に白い物々があると判明しました。細菌を駆除するため点滴投入を当日から四日間行いましたがファイバースコープで確認した所、下咽頭の細胞及び首の腫れに改善が見られず、系列の大学病院へ行くように紹介状を頂きました。

10月12日、大学病院の耳鼻咽喉科にてファイバースコープで写真10枚撮り細胞を二箇所採取しました。五日後の17日に大学病院で、PET検査、内視鏡の予約と入院手続きを行いました。

「入院しても手術ができる状況ではない。」細胞採取から一週間後の19日に下咽頭がんステージ4の診断が出されました。

10月20日にCT検査、21日PET検査を行うと共に入院時の問診を受けました。

「父親の喉頭がん摘出手術をしてくれた先生のいるがん研有明病院で診てもらいたい」

診断書を持って翌日に別の耳鼻咽喉科にセカンドオピニオンの相談と受診をしました。25日に予約外受診を行い、26日に大学病院にがん研有明病院への転移の承諾を頂き紹介状及び検査データを頂き、28日にがん研有明病院頭頸科に受診しました。

診断結果は、下咽頭がんステージ4、下咽頭部扁桃腺がんによるリンパ節に複数転移でした。処置として①リンパ節に転移した複数細胞の削除手術 ②下咽頭部へ放射線+化学治療(抗がん剤) ③喉頭部全摘出手術を提示されました。

11月2日のCT検査の結果、左首リンパ節に転移したがんが早く、左首の筋肉・神経4本・動脈&静脈まで転移していました。11月9日に入院し、10日に左耳下くあごの部分でJの字に開き神経4本・動脈&静脈を削除する手術を5時間かけて行いました。術後、2月中旬まで抗がん剤治療2回と放射線治療33回がありました。左首の筋肉・神経を削除したため、左手が上がらず、(リハビリで今は改善)、味覚障害もありました。2月23日までは胃ろうで栄養補給していましたが、入院中に血尿があり、膀胱がんと前立腺がんが見つかり、手術を行いました。5月23日に退院しました。

2年後2018年の検診時に下咽頭がんの再発を告げられました。もしかすると喉頭部全摘と伝えられましたが、ファイバー

スコープで癌細胞が摘出できました。

「自分の声が耳で聞こえる」

森下昌毅さんは術後、目を覚ました時に、声が出たことが嬉しくて涙がこぼれたと話されていました。

「おやじが守ってくれた」

お父様の正雄さんは晩年、喉頭癌のために声失っても自分のテープの語りに合せて口を動かす、「声をなくした紙しばい屋さん」として新たな紙芝居のスタイルを確立して、亡くなる直前まで現役を貫きました。

「体調を考えながら子どもたちに紙芝居を伝えたい」

森下昌毅さんは自らの選択で命と声を守った黄金バットです。

今後のあらかわ遊園での紙芝居公演は月一回の第二土曜ですが、あらかわ遊園のホームページでご確認ください。

あらかわ遊園で「カチ・カチ・カチ」と拍子木が聞こえたら、ぜひお立ち寄りください。復活の黄金バットに出会えます。

